

「ふるさとの<sup>なまり</sup>訛なつかし駐車場の、人ごみの中に、それを聴きにゆく」

石川啄木の、ふるさとのことを思うこの短歌が、こんなにも心にしみることになるとは思ってもありませんでした。駐車場に出かけなくても毎日のように私の故郷の方言がテレビから流れてくるのです。

阪神・淡路大震災、東日本大震災など自然による災害が起こる度に、自分の力や努力だけではどうしようもないことがあるのだと、人間は地球という星から土地をお借りして生活させてもらっているのだと、何気ない日常生活をして生きていけるだけでも感謝しなければいけないのだと、色々なことを思い巡らせます。

縁あって石川県から亀山に移り住むようになって36年、今では石川での生活期間より亀山の方が長くなりました。駅前に塾を建てる時、鉄骨の基礎のために地面を深く掘り、そこにコンクリートが注ぎ込まれたのですが、その時、心が痛んだことを思い出します。ほんの少しではありますが、地球を傷つけてしまったと感じたのです。ならば、この土地は自分の利益のためでなく、人に役立つために活用しなければ、地球に申し訳ないと思いました。そして、世のため人のためにこの土地を活かすことができなくなったら地球にお返しします、と地球に誓い、今に至っています。

ということで、故郷のことも気がかりなのですが、私には受験を控えている大切な生徒たちがいます。受験に良い結果をと願うのは当然であります。寂しいのは中学3年生の生徒らとの授業が残りわずかになってきたことです。彼らとの授業が楽しかったのです。楽しかったのは生徒たちのお陰であります。下品な私の言葉で傷ついた生徒もいたでしょう。変なあだ名をつけられた生徒もいたでしょう。それでも笑いの絶えなかった17人の生徒たち。

地球に感謝、生徒に感謝、御父兄に感謝、そして今日生きていることに感謝であります。

## 連絡事項

2月12日(月)、23日(金)は祝日のため全クラスお休み

